

## 黒大豆の出荷準備が進む(12月10日)

正月のおせち料理などに使われる丹波黒大豆の出荷準備が本格化し、真南条中の農家・中西敬司さん宅では出荷作業が行われています。中西さんは枝豆を含め30アールで栽培。乾燥させた豆を脱粒機にかけてさやから豆を取り出した後、ひび割れなどの規格外のものを手作業で選別されていきました。



## 受験生応援「落ちない山の芋」(12月1日)



強い粘りが特徴で、すりおろした後も器から落ちない特徴にあやかり、受験を応援する「落ちない山の芋」の販売が始まりました。春日神社で合格祈願の祈禱を受けた山の芋と学業のお守りをセットにして、JA丹波ささやま特産館で販売しています。

## きんぎょまふいぬ 107

「きんぎょまふいぬ!」地域のヒーロー消防団



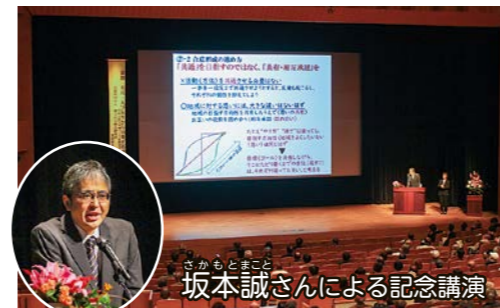
## お米のミライを考える出前授業(12月5日)



令和6年5月に市と包括連携協定を締結された神明ホールディングス。八上小5年生を対象に「お米のミライ」と題した出前授業を行いました。授業では同社の社員が講師となり、「日本の米の生産量・消費量と食料自給率」について説明した後、児童たちは米の生産量や消費量を増やすための取り組みを発表しました。

## 城南小で伝統文化体験教室(12月6日)

城南小学校の5・6年生を対象に行われた「子ども伝統文化わくわく体験教室」。書作家協会の坂部泰子さん、岩本藍さんが講師となり、書初め大会に向けての練習に取り組みました。大会で挑戦する「夢を語ろう」の書き方のコツを教えた6年生。用意された手本を見ながら、丁寧に文字を書いていきました。



## 丹波篠山市民の日 記念イベント(11月16日)

市では市制施行以降、初めて住民投票が成立した11月18日を「丹波篠山市民の日」と定めており、それを記念したイベントが田園交響ホールで開催されました。オープニングではチアダンスや合唱が披露され、記念講演では地方自治総合研究所の坂本誠さんが登壇。住みたいまちNo.1対決では芦屋市の高島市長と丹波篠山市の酒井市長が「景観」「文化」「市民参加」の部門別で直接対決し、会場は盛り上がりを見せました。

## 篠山鳳鳴高校でロケット教室(11月26日)

「下町ロケット」のモデルとされる(株)植松電機の植松努代表取締役社長が篠山鳳鳴高校を訪問し、STEAM探究科の生徒たちにロケット教室を開催しました。生徒たちは全長30cmほどのロケットを組み立て、エンジン使って打ち上げました。上空でパラシュートが開くと、拍手と歓声が上がりました。その後行われた講演会で、植松さんは「これからの時代は記憶の量や正確さよりも、新しいことを生み出す力が必要です」と話され、多くの生徒に挑戦する勇気を与えました。



## 狩猟解禁(11月15日)



11月15日から2月15日まで(イノシシとシカは3月15日まで)狩猟が解禁。解禁日には、市猟友会篠山支部の8人が参加し、安全確認について打ち合わせを行った後、猟場に向かいました。猟犬を放して狩猟を開始すると、シカとイノシシ1頭ずつを捕獲しました。

## 除雪機貸与事業(11月29日)



昨年からはまった、積雪の多い自治会へ市が小型除雪機を貸与する本事業。今年は小田中、垂水、小立、藤坂、宮代の5つの自治会に小型除雪機が貸与されました。貸与された小型除雪機は、各自治会で除雪作業の省力化や、早期通行確保に役立てられます。

## 今田小で有機農業の食育授業(11月27日)



オーガニックビレッジの取り組みとして、化学肥料・農薬を使わず栽培したお米を3日間給食に使用し、あわせて今田小学校では、有機農家による食育授業が行われました。有機野菜の香りに子どもたちは「THE自然って感じ!」と楽しそうに授業を受けました。